

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立大崎小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまずき解消	学力担当と研究部が中心となり、全職員で!	授業改善に向けて、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた全員参加の授業の研修を定期的にする。	年間を通じて	○全学年統一した問題集 ・国語…言葉のきまり、αドリル ・算数…算数の力、αドリル ・算数ウェブ、げんぼプリント ○大崎漢字週間、大崎計算週間 学期に2回ずつ設定し、最終日にテスト。90点以上に合格証を出す。	○記述式、「話すこと・聞くこと」の領域の正答率が平均より上回る。 ○国語や算数の授業がわかると回答する児童が90%以上。
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実 (児童会・生徒会や家庭等)	学力担当と生徒指導部が中心となり、全職員で!	家庭学習、読書時間を増やし、メディア時間を減らす。	年間を通じて	○「がんばる大崎っ子カード」(家庭学習充実週間、減メディア)を学期に2~3回実施。チャレンジハッピーデーの内容も取り込む。 ○小中連携の一貫として、生徒会が取り組んでいる(例スマホサミット)ことを、全校朝の会等で紹介してもらう。	○家庭学習の時間(本校の設定時間) 1年生26分、2年生35分、3年生45分、4年生55分、5年生65分、6年生75分以上の目標がクリアできた児童70%以上。 ○メディアとかかわる時間が2時間以上の児童が30%。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】 全国(6年)	【学習状況調査の結果】
<p>○国語は全国平均と比べると2.2%正答率が高い。</p> <p>○領域別にみると「書くこと」「読むこと」「言語文化、特質に関する事項」が全国平均を上回っている。「話すこと・聞くこと」が全国平均を下回っている。</p> <p>○算数は全国平均と比べると6.6%正答率は低い。</p> <p>○領域別にみると特に「量と測定」の領域で全国平均を下回っている。全国平均に比べて記述式の正答率が低い。</p> <p>特徴的な傾向を示した問題</p> <p>・国語 接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す:本校31%(全国47.8%) ことわざの使い方:本校79.3(全国73%)</p> <p>・算数 選んだだけを書く:本校34.5%(全国49.1%) どのようになるのか書く:本校24.1%(全国30.9%)</p> <p>県(3年~5年)</p> <p>○3、5年生は、国語・算数ともに全国平均と比べると高い。</p> <p>○4年生の国語は高く、算数は全国平均と同じ。</p> <p>○国語は領域別にみると、3、4年生は「話すこと・聞くこと」、5年生は「読むこと」、算数は5年生の「量と測定」に多くの課題がある。</p> <p>○国語の「書くこと」の領域は3、4、5年生とも全国平均を上回っている。</p>	<p>○家庭学習の時間が1時間以上する割合が6年生は全国平均に比べて13.2%上回っている。5年生は県平均と変わらない。</p> <p>○スマホ等の使用時間が、2時間以上4時間未満が県平均より13.9%上回っている。家の人と約束を守っている割合は上回っている。</p> <p>○「自分にはよいところがある」の質問に当てはまると答えた割合が、6年生は全国平均と比べて14.7%、5年生は県平均20%と、どちらも下回っている。</p> <p>○テレビ等の視聴時間は、1時間以上が県平均を16.5%上回っている。</p> <p>○読書時間については、1時間以上する割合は全国平均を2.8%上回っているが、10分以下の割合が20.9%上回っている。</p>

成果
<p>○大崎漢字、大崎計算週間に学期ごとに行い、合格証を出すことによって、漢字や計算に対する取り組みが意欲的になり、継続して漢字の読み書きは全国平均を上回っている。</p> <p>○全学年統一した問題集を使い、活用問題に取り組みことで、記述式の問題の正答率が少しずつ上がっている。</p> <p>○「考える」を軸として、既習事項や前時の振り返りを全クラスが授業の始めにおさえるようにすることで、導入から全員参加の授業を目指すことができる。</p> <p>○低学年を中心に放課後の補充学習を行い、授業以外で学習習慣をつけた。</p> <p>○「がんばる大崎っ子カード」(家庭学習充実週間、減メディア)を毎月行うことで、家庭学習への意識が向上してきている。</p>

課題
<p>○国語・算数共に、活用型、記述式の問題を苦手としている児童が多い。</p> <p>○自分の考えを発表する機会で、工夫ができていないと思っている児童が多い。</p> <p>○メディアについて、家で約束を決めて守っているとした児童は多いが、メディアに触れる時間は平均より多い。</p> <p>○読書を全くしない児童が平均より多い。</p> <p>○自己肯定感が低い。</p>

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
授業改善	学年末	全学年 ・意欲的に考え友達と協力し課題解決に取り組む。 ・自分の考えを表現する機会を意図的に増やし、指導する。「自分の考えを工夫して発表できる」全国平均と同じ値を目指す	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた全員参加の授業づくりを通して、すべての児童が考え、粘り強くだれでも助け合えるようにする。 ・学校独自の漢字・計算週間は継続する。					
規範意識・自己肯定感を高める	学年末	全学年 ・校内ルールがしっかり守れるようになる。 ・自分にはよいところがたくさんあるといえるようになる。(全国、県平均と同じ値を目指す)	・「ほめほめカード」「ほめほめ写真」の取組を継続していく。 ・児童会を使って、校内ルールの大切さや必要性を考え、徹底させる。 ・たわわり班活動、集会活動を多く取り入れ、リーダー性を高め、自己有用感や思いやりの気持ちをもてるようにする。 ・家庭学習充実週間(がんばる大崎っ子カード)を継続していく。					
家庭学習の定着と充実	学年末	全学年 ・目標時間(学習時間、減メディア)クリアの児童数を70%に増やす。 ・家庭学習充実週間にとどまらず、毎日の学習時間や読書の時間が増える。	・目標時間の設定を検討する。 ・家庭への協力、啓蒙を行う。 ・頑張っている児童の様子を紹介する。					

※達成度 I S:目標を多く上回った(100%未満) I A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満) I B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満) I C:目標がある程度達成できた(50%以上70%未満) I D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満) I E:目標を達成できなかった(30%未満)

小中連携の取組
<p>・学方向上の会で減メディアの取組や家庭学習への取組を交流し、校内で研修する。</p> <p>・学区で統一した目標として、「笑顔であいさつ」掃除を時間いっぱいする「家庭学習時間の確保」に取り組む。</p> <p>・学区で統一した取組として、「中学校の定期テスト週間」にからめての家庭学習充実・減メディア、また「チャイムスタート」を行う。</p> <p>・生徒指導の充実として、迅速な問題解決への取組、情報の共有をする。</p>

保護者・地域へ理解・協力を求めること
<p>○家庭学習の取組について、「家庭学習のすすめ」を配布し協力を仰ぐ。また、学校・学級通信等で家庭学習の重要性を知らせる。</p> <p>○学級P活動で懇談会を積極的に開き、児童の様子や学習への取組をしっかり伝え、家庭教育の重要性を理解してもらい協力を仰ぐ。</p> <p>○長期休業中に家庭で減メディアを意識させるカードをつける。</p> <p>○地域ボランティアの方に協力いただき、体験学習に取り組む。</p> <p>○学期に2~3回取り組む「がんばる大崎っ子カード」を通して、保護者への協力を依頼する。</p>